

# 足利新聞

06.12.No116  
発行日 市岡日越  
発行所

十月下旬から十二月にかけて「祖谷の空」を再認識する事が続き、ここに住んでいることの誇りと自信が確信になってきました。その一は、伝統的建造物群で指定を受け、一週年記念ミニボウムで、東祖谷以外の皆々からその素晴らしさ、重要性、価値の高さをあ聞きつけた事です。

私たちが「守る」意識も「伝える」意識も、今まで生きてきただけなのに、延べハチナートルの石垣が残っていたり、築何百年の民家が存続したり、段々畑の景観はどこにでもあるものでない。

↑ 鈴中地区より112ルネ西

## 「祖谷」にしかない空

また、落合小学校のちうと年生が、地域の学習会で、自分の住んでいる、落合や祖谷が「え」といって発表する姿にふれると、私たちが大人たちは、今何を感心、東祖谷をどうしていかなければいけないかを教えるように思います。落合地区の「おやえ」が中心になって、落合地区から東祖谷の価値を守り伝えるというければ、オニリ1ワンの地域は元気に育つとおもいます。その二は、阿波学会が、旧東祖谷山村の総合学習調査発表会があり、参加しました。自分の村のことなのに、知らないことばかりでした。動物も、祖谷という地域でから生息している、四国でもめずらしくあったり、どれと、祖谷の自然環境の素晴らしさが認識できました。世界最小の甲虫グループのムクゲキノコ4種、ひんとみりという小さい生物。植物でも「マメグミ」とか、少くなくついているというヒメヘビイチゴ、ミヤマキクマン。また、石仏に弥勒菩薩が五基と存在したりと、空が次々とあります。知ろうとしなければ何も変わりません。知ったほうが、守り伝えるための努力が回ります。



十月には、祖谷をハネムーンの地として訪れた二人がありました。オーストラリアから、日本へハネムーンに来た、何と所か訪れ、その一ヶ所が、祖谷ひんの嬉しい限りです。幸せな二人は、左の写真の「ドラス」とベッカさん。龍宮岩コテージ泊り、祖谷の各地へ行かれました。管理人の高橋さんの話で、新婚さんだとわかり、祖谷最後の夜、お祝いをこころあげようという事になり、ささやかな宴をコテージで開きました。イルミネーションの花火と、食事。日本語、英語のトーク。本当にさやかたしに、まうと喜んで下さった。

うんしん  
祖谷へハネムーン



祖谷へハネムーンで来た下さった  
アンドリュー・ウッド、レベッカさん夫妻